

## 共同研究 調査・資料

### ■日本常民文化研究所

2021年度より「A. 基幹共同研究」「B. 基盤共同研究」「C. 個別共同研究」の三つのカテゴリを設定し、学際的な共同研究を進めている。ここでは、各共同研究での調査、資料等の写真を掲載した（6～21頁参照）。

- ◆ A. 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」“日常茶飯”——日本人は何を食べてきたか  
期間：2020年～ 代表者：周星



写真1 和歌山県田辺市中辺路町の茶粥、米をとがずに茶汁で煮る（中村羊一郎氏提供）



写真2 山口県周防大島町のソラマメ入り茶粥（中村羊一郎氏提供）

◆ A. 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」布の製作と利用に関する総合的研究  
期間：2019年～ 代表者：昆政明



写真1 滋賀県愛荘町立歴史文化博物館における「襦袢」の調査



写真2 「田上てぬぐい」と東郷館長 滋賀県大津市田上郷土資料館

◆ A. 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」 便所の歴史・民俗に関する総合的研究  
期間：2019年～ 代表者：須崎文代



写真 1 登録有形文化財 旧知念家住宅フル（1996年おきなわワールド内に移築、2021年12月須崎撮影）

◆ B. 基盤共同研究 海域・海村の景観史に関する総合的研究  
期間：2015年～ 代表者：安室知



写真 1 能登国邑知湯（現羽咋市・中能登町・七尾市）周辺の利用絵図（常民研所蔵）

◆ B. 基盤共同研究 ポルト南蛮屏風の総合的研究による新領域の開拓

期間：2021年～ 代表者：関口博巨

※本研究はJSPS科研費21K18119の助成を受けたものです（2021年7月9日～2024年3月31日）。

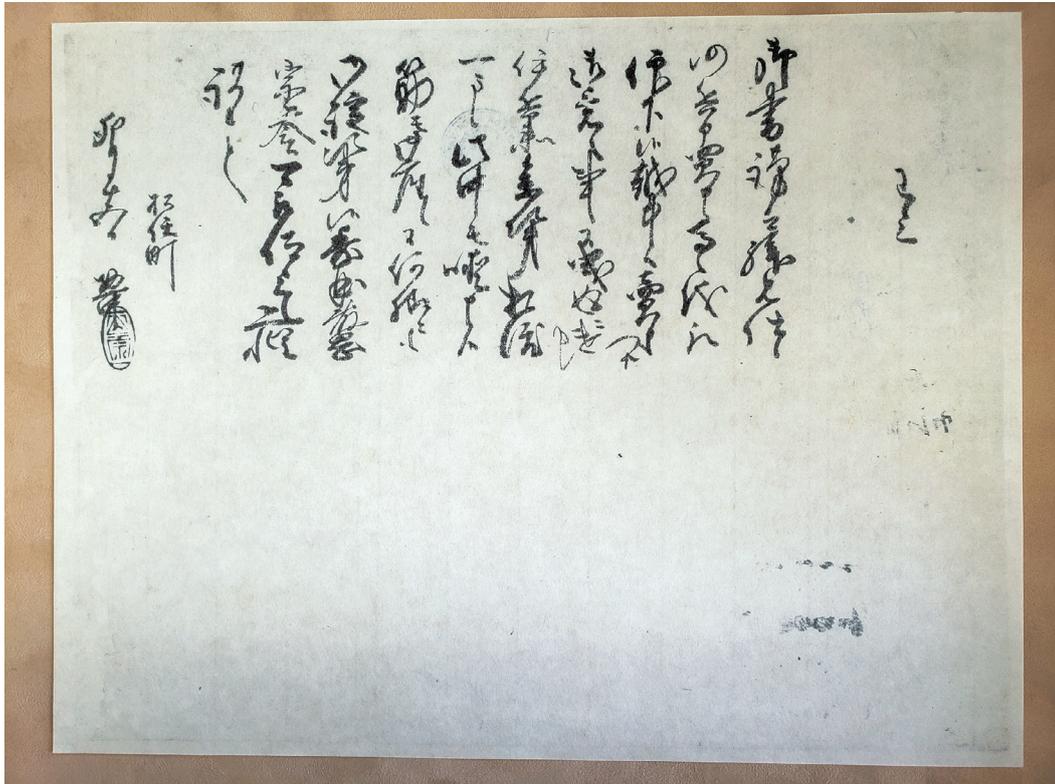


写真1 エヴォラ屏風文書 レプリカ



写真2 エヴォラ屏風文書（レプリカ）の収納箱（一部）

◆ B. 基盤共同研究 日本常民文化研究所所蔵資料からみるフィールド・サイエンスの史的展開  
 期間：2016年～ 代表者：泉水英計

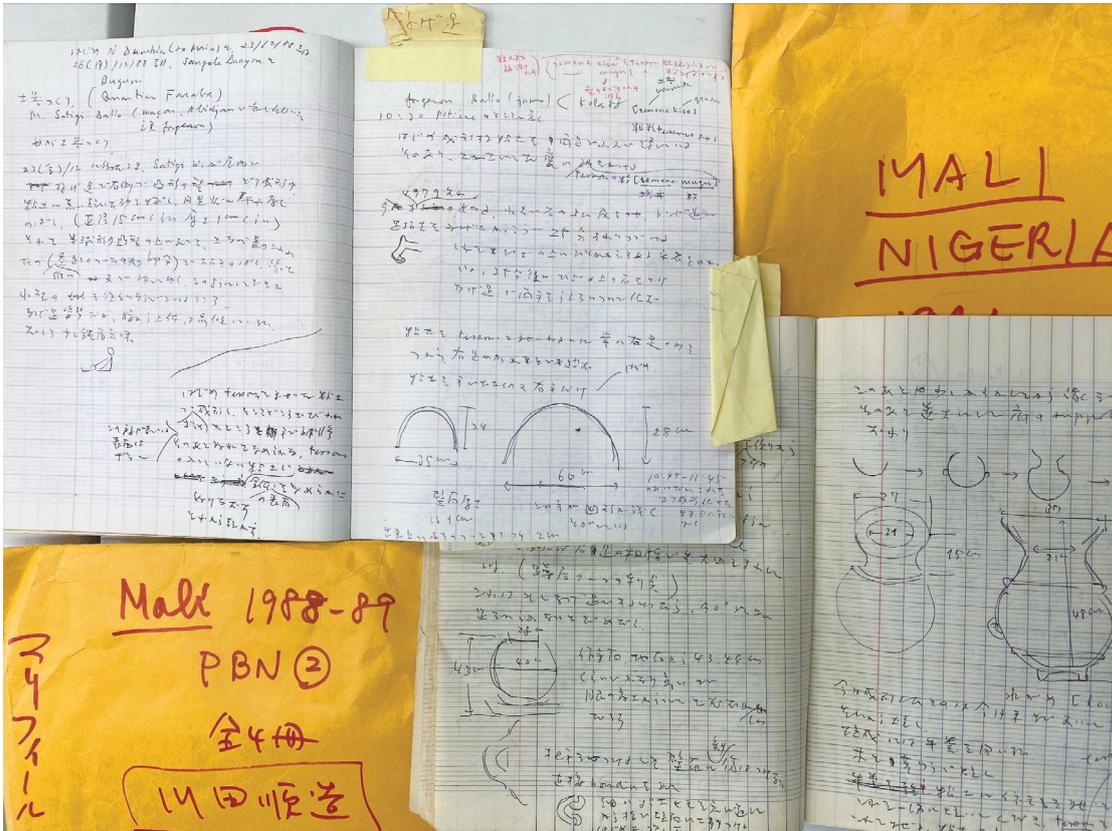


写真 1 1990年前後の西アフリカ・マリ調査のフィールドノート（川田順造資料）



写真 2 国立民族学博物館 企画展「焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」（2022年3月）

◆ C. 個別共同研究 歴史民俗資料とデジタルファブリケーションの可能性の研究

期間：2019年～ 代表者：関口博巨

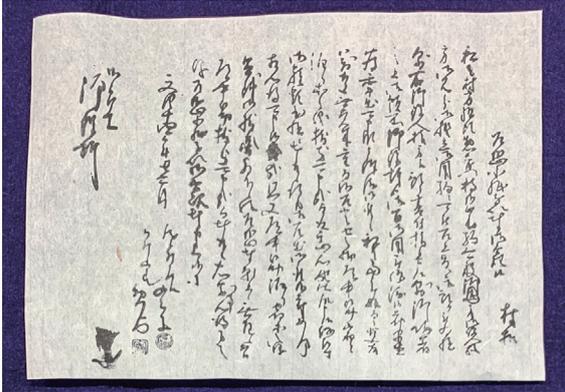


写真1 擬似古文書用版木の試作品（常民研）



写真2 ファブラボみなとみらい

◆ 受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業

期間：2021年11月16日～2022年3月25日 代表者：角南聡一郎



写真1 三宅島巡検の様子



写真2 伊ヶ谷地区の積石遺構

## ■国際常民文化研究機構

国際常民文化研究機構では、公募により採択されたプロジェクト型共同研究が進められた。地域の研究者を助成する目的で「共同研究（奨励）」も合わせて行われた（研究活動報告 46～55 頁参照）。

## ◆共同研究（一般）台湾の「海女（ハイルー）」に関する民族誌的研究

——東アジア・環太平洋地域の海女研究構築を目指して——

研究・成果報告期間：2018年4月1日～2022年3月31日 代表者：藤川美代子



写真1 地方文書整理の作業風景（藤川美代子撮影／静岡県下田市須崎）

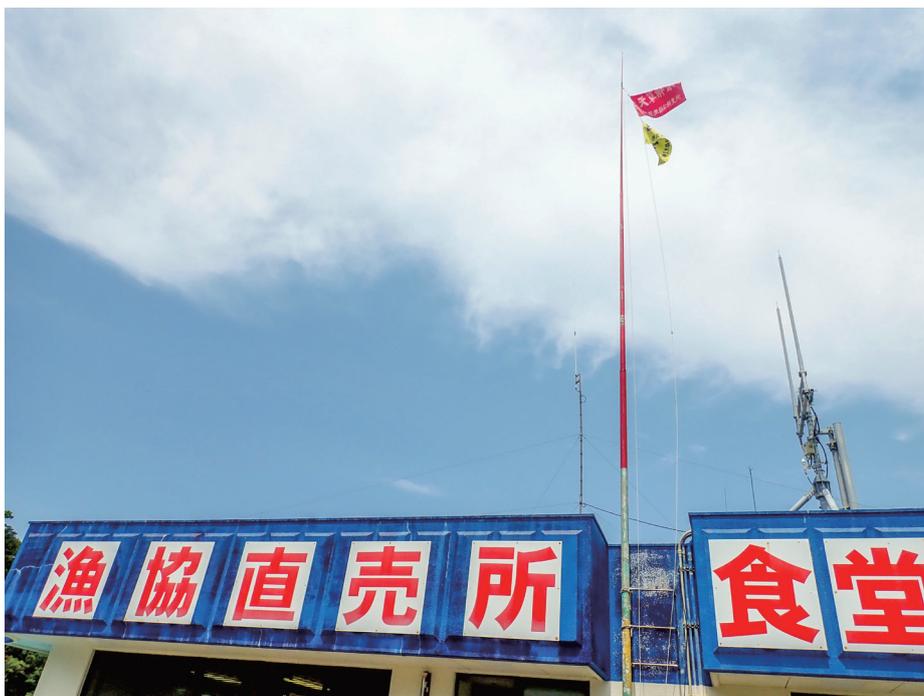


写真2 テングサ漁（上）とトコブシ漁（下）の解禁を知らせる旗がたなびく仁科漁協（藤川美代子／静岡県賀茂郡西伊豆町仁科）

◆共同研究（奨励） ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における  
民具からみた日本移民の生活史の研究  
研究・成果報告期間：2019年4月1日～2022年3月31日 代表者：福澤一興



写真1 聖フランシスコシャビエル大聖堂  
(ブラジル・レジストロ市)



写真2 市営墓地俯瞰（レジストロ市）

## 共同展覧会「布 うつくしき日本の手仕事」

期間 2021年7月17日～9月20日

会場 横浜市歴史博物館 神奈川大学みなとみらいキャンパスフロア（パネル展）

主催 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 神奈川大学日本常民文化研究所

2020年度開催予定であったが、新型コロナウイルス流行の影響により、一年遅れの2021年度に開催した。なお、図書館改装工事に伴う展示室の一時閉鎖に伴い、横浜市歴史博物館会場のみで資料を展示し、大学内ではみなとみらいキャンパスフロアでパネル展示を開催した（詳細は26頁参照）。



写真1 展覧会会場入り口ディスプレイ。こぎん（左）と襦袢（右）が象徴的に配置されている



写真2 青森県のこぎんの展示コーナー。展示品は青森県有形民俗文化財。青森市教育委員会蔵

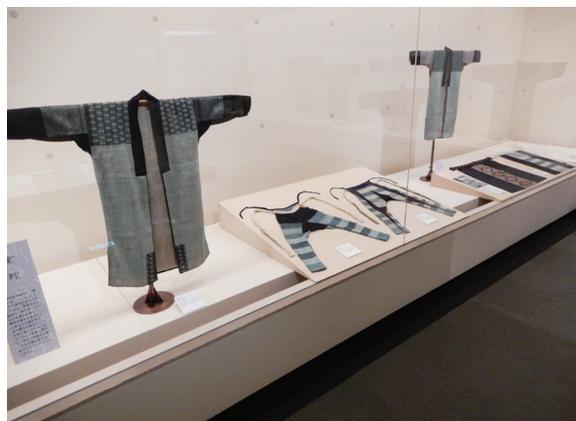


写真3 重要有形民俗文化財「南部の刺し子着コレクション」（三沢市教育委員会蔵）菱刺しの展示。まとめて県外で展示されるのは今回が初めて



写真 4 庄内刺し子(神奈川県立歴史民俗資料館蔵 渡部つとむコレクション)の表と裏を見ることができるよう工夫された展示



写真 5 さまざまな庄内刺し子を展示(神奈川県立歴史民俗資料館蔵 渡部つとむコレクション)



写真6 麻から麻糸そして麻布となり、それが着物に仕立てられ、使い込まれて質感が変化して行く様子を展示  
(神奈川大学日本常民文化研究所蔵)



写真7 企画展「布 うつくしき日本の手仕事」展示資料パネル展全景  
(みなとみらいキャンパス1階展示プロムナード)



写真8 企画展のポスター・趣旨、津軽のこぎん、南部の菱刺しの紹介



写真9 庄内刺し子(神奈川大学日本常民文化研究所蔵資料 渡部つとむコレクション)のコーナー

## 新収蔵資料 渡部つとむコレクション

「渡部つとむコレクション」は会津民俗館前館長渡部聖氏が収集した、新潟県から東北地方および北海道のアイヌ関係の資料を含む千数百点の衣服コレクションである。昨年度より3カ年計画で本校に譲渡されることになったもので、今年度はその2年次に当たる(詳細は8・24頁参照)。

※撮影 横浜市歴史博物館 吉川久雄



写真 1-1 (左) ぜんまい織り長着 (前) 福島県会津若松市 神奈川大学日本常民文化研究所蔵 渡部つとむコレクション 山菜であるぜんまいの綿毛と木綿を混ぜたものを緯糸、経糸を木綿として織られている  
写真 1-2 (上) 同 (後)



写真 2-1 麻ジバン 後身頃・衿拡大 福島県会津地方 神奈川大学日本常民文化研究所蔵 渡部つとむコレクション 麻に型染めを施している



写真 2-2 同 (後)



写真 3-2 同 (後)



写真 3-1 セナカアテ (麻製) (表) 秋田県 神奈川大学日本常民文化研究所蔵  
渡部つとむコレクション 麻に藍染め、裏地には浅黄色が用いられている